



心豊かな暮らし

縁_{en}

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

2007 創刊号 Vol.1



心豊かな暮らし contents



3 ■特集

昭和初期の洋館で、 癒される。

7 小さなことから始めましょう。
自然と共に暮らす。

9 矢橋グループの街づくり「川のほとり」
あなたのお家が
みんなの風景になる。

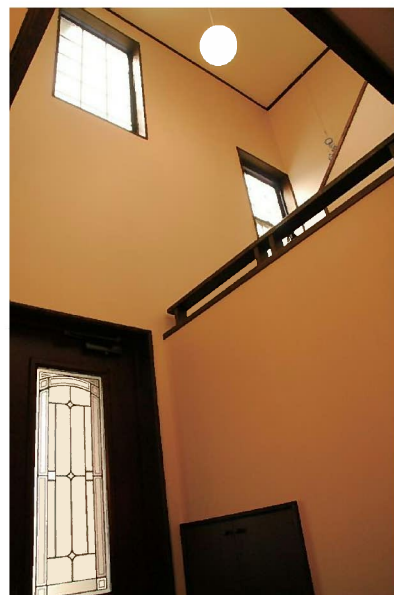
11 漆と付き合う
「あな形櫨子」を使う。

13 矢橋グループ新本社屋紹介 設計・監修／早川 正夫
中山道赤坂宿の街並を。

■連載
中山道赤坂つれづれの記 文／清水 春一
赤坂お茶屋屋敷（二）



冬の三宜亭
四季折々の美しさ。
雪に宜、月に宜、花に宜



上端／リビングから、庭を眺める。左／玄関から見上げる解放的な吹抜。右上／玄関正面の飾り棚。懐かしい雰囲気の小窓ガラス。右下／陶器のタイルと無垢の玄関収納。



ほっと安らぐ窓からの灯り。公園の緑と暖かい灯りがより一層、洋館を引き立てる。

欧

古き良き洋館。
日本人は欧米の文化を理解し、風土にあった洋館を手に入れた。昔ながらの素材を活かし、重厚な品格が持ち合わせながらも、現代生活に対応できる「昭和初期の洋館」



リビング。窓の向こうからは、公園の緑が。

く並べられた、かわいいお部屋が。
「このブルーの部屋を見た瞬間『ここはアロマの部屋』って決めたんですよ。」奥様は以前からアロマを勉強されていたとか。それでいつか自宅でも本格的にアロマをやりたいと思って見えたそうです。
静かな音楽を聞きながら、香りを楽しむリラクゼーション。お友達が癒しを求めて次々にお見えになるのもうなづけます。



アロマコレクション。



体調や好みに合わせてオイルをえらぶ。



奥様お気に入りのブルーのアロマの部屋。

家は呼吸している。 そんな感覚です。

先日は、最近「Wing」と言うユニットを組んだばかりのお友達を呼んで、ご自宅でコンサートを開催。家中に響き渡るバイオリンの音色に、演奏者の気持ちも高まった様です。ご家族の方は演奏を聴きながら、「自分たちが家だったら、きつと嬉しいだろうなあ。」と思われたと言います。
「なんだか家が喜んでいるような気がして・・・音もすぐくキレイに響いていたし、本当に良かったんですよ。家は呼吸している、なんて話を聞いたことがあるんですが、そんな感覚です。」
壁や床、家と言う空間、その声なき声に耳を澄ませ、心で感じる。その素晴らしい感性は、ご家族だけでなく、お部屋にさりげなく飾られたお花や、エクステリアを彩るガーデンングにもふんだんに施されていました。

静かな音楽と 優しい香りに包まれて。

「私たち家族が求めていた家に出逢えました。」
そうお話し下さったのは、街シリーズ「欧」にお住まいのお客様。モデルハウスだったこの家をご覧になって、初めて入る場所なのに以前から知っていたような、あたたかい場所だと感じたとか。
「今まで大切に使用してきた家具も家の雰囲気と合っていて、私たちはこの家だ！って思っていました。」

窓から公園の緑も望めるリビングには、お気に入りの家具たちが心地良さそうに置かれていました。お話を伺いながらご自宅を案内して頂いていると、時折ふんわりとやさしい香りが漂っていました。「ここが『アロマの部屋』です。」と言って扉を開けると、そこにはアロマオイルの小瓶たちが行儀良



素敵な post と緑たちがお出迎え。

季節によって姿をかえる自然と共に暮らし、それを楽しむ。日本の四季を愛でるゆとり。お部屋の中からお庭にかけて、そしてそれは街全体へと繋がり、街並みが形成されていく。
「心豊かな暮らし」
そんな言葉が浮かんできたのでした。



木材事業本部 住宅部
営業担当
杉山 達也

家全体が「くつろげる」場所に

「私のライフスタイルにぴったり」と絶賛して頂きました。
ご入居後は、外の眺めや庭の緑を楽しまれていると伺い、嬉しく思います。ご家族にとって、このお住まいが末永く快適でくつろぎの場である事を願っています。



E X T E R I O R

知っているようで知らないことってありませんか？

お庭のお手入れ Q&A

Q. 樹木を植えるのに適した時期はいつですか？

A. 真夏と極寒期を避けて植栽します。

Q. 花を長期間楽しむ方法がありますか？

A. 花がら（咲き終わった花）を摘むことで他の花芽に栄養がまわり新しい花を次々と咲かせます。



Q. 植物の水やりはどのように行えばいいですか？

A. 水やりの基本は「土の表面が乾いたらたっぷりと与えること」です。
春・秋・冬は日中の暖かい時間に、夏は朝夕の涼しい時間に行います。
植栽したばかりの時は、毎日行います。植栽が根付いたあとは、
夏は毎日、春・秋・冬は土が乾いたら行います。

お庭のお手入れ等で分からないことがあれば、私たちにお気軽にご相談下さい。



上段左から 小澤 英樹、林 貞行
下段左から 三輪 明子、井上 正人

ご相談窓口

三星砒業株式会社 グリーンコート事業部
TEL. 0584-22-0002 FAX. 0584-22-0769

担当 林 貞行
携帯 090-5631-7168
E-mail sada@mail.yabashi.co.jp



自然と共に暮らす。

小さなことから始めましょう。

「川のほとり」みんなの公園 えのき

まずは、玄関先に植物を
一鉢置いてみて下さい。
するとその緑が
みんなの緑となり
きつとつか
あなたのところに
帰ってきます。

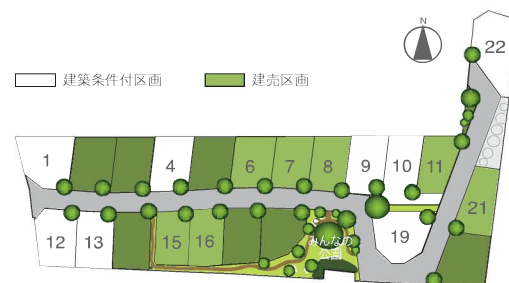


GREEN COURT 綾戸 川のほとり

電線の地中化

電線を地中に埋設しました。電線が無くなれば、電柱も無くなり、すっきりした街並になります。樹木は心地よい風を運んでくれます。また、冬は冷たい北風から家を守り、ひだまりの暖かさが家を出迎えてくれます。

矢橋グループの街づくり「川のほとり」
あなたのお家が
みんなの風景になる。



私たちが皆様のお越しをお待ちしております。



上段左から 杉山達也、太田信之、豊田悦子、早崎信治
下段左から 高崎順治、杉野健次、大橋能久、佐竹哲明

木材事業本部 住宅部 営業担当

私の家族、隣の家族、そのまた隣の家族人も家も庭も、みんな繋がっています。木々の成長と共に家族の成長や美しい街並が心に残る、そんな街をみんなで一緒に作りませんか？

一度、夜の風景もご覧になって下さい。夜、帰ってきたとき、あたたかい灯りに包まれた街並が、心を癒してくれるでしょう。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先

フリーダイヤル 0120-884-039

※携帯電話からご利用頂けます。



伊吹山や養老山脈に囲まれた相川の清らかな流れのほとりにこの街はあります。はたどの豊かさとは、四季の移ろいを感じられる自然環境の中にあるべきなのかもしれません。時が経つにつれて深みを増す、緑あふれるこの街で、心豊かな暮らしができる住環境を・・・

かぞくの木

「川のほとり」では、各宅地に一本ずつ樹形の美しい落葉樹を植えました。それが「かぞくの木」です。この「かぞくの木」が隣の木と繋がって、ゆるやかな曲線を描くメインストリートの並木道を形成しているのです。あなたは、木とお話したことがありますか？お庭にある「かぞくの木」名前はまだありません。新しい家族の一員として、どうか、この木に名前をつけてあげて下さい。こころばかりの品ですが、つけて頂いた名前と日付を刻んだ石を、この木と共にプレゼントさせていただきます。

<http://www.yabashi.co.jp/craft/>



漆工芸は東洋独特の工芸技術であり、中でも日本の漆工芸は世界的にも高く評価されてきました。CHINAが陶器を指すように、JAPANは漆器という意に用いられております。日本の風土に生まれ育った原材料の漆を用い、日本人の手によって磨き上げられた漆工芸は、日本を象徴する匠の精進であります。本地の木材は、昔ながらの素材として、長年に渡り蓄積し、養生、乾燥し吟味した木材をそれぞれの用途に余すところなく用いております。それは天然の木材を大切に使用する日本の伝統技術である木地師の仕事を踏襲するものであります。

「かたち」を模索し、材料を調える、温故知新の文字の中に我々矢橋工房の目指す工芸の道はありと考えております。

YABASHI KOUBOU

漆

矢橋工房



あな形様子とフルーツ

もっと気軽に漆器を使ってみて下さい。

漆器と言うと「高価な物」「お手入れが大変」と思っていますか？そのイメージから、せっかく漆製品を持つていても、お正月などの特別な日だけしか使わなかったり・・・もしかしたら、もったいないからと何年も押入からだしていませんか？確かに漆製品の中には、金箔や銀箔が施されたものや、艶やかな仕上がりのために傷が付くと目立ちやすいものもありますが、元々漆と言うのは強い塗料ですので、普段普通に使うくらいで破損する事はありません。では、具体的にどのように扱えばいいかと言うと、まず陶磁器などと一緒に水に漬けておかないと言う事です。使い終わったら漆器だけ先に洗い、水気を拭いておく。それから陶磁器などと重ね



矢橋工房をご存知ですか？岐阜県不破郡垂井町にある、矢橋テクニカルセンター。その一角に矢橋工房があります。工房では、主に漆器や家具を製造・販売しています。

工房展のご案内

「矢橋工房と土楽陶房の食器」展

■名古屋
会場：名鉄百貨店 本館10F
アートギャラリー1
2007年1月10日(水)~16日(火)

■東京
会場：矢橋工房 銀座店
2007年1月22日(月)~31日(水)

お問い合わせ先

矢橋工房
TEL:0584-22-3684
<http://www.yabashi.co.jp/craft/>

あな形様子

あな形：樹上に造る円形の巣のかたちのこと。

様子：菓子などを盛る漆器で茶風台を有す。根来塗りのものもある。

奈良法隆寺伝来の様子の意をもつて製作いたしております。

たりしないこと。これだけです。いくら強い漆製品でも、硬い物と一緒にして扱おうとヘコミや傷がついてしまいます。でも、これさえ習慣になつてしまえば「お手入れが大変」とは思わないでしよう？もしも、しまい込んでいる漆製品があれば、是非使つてあげて下さい。使い込むほどに変わっていく表情もまた美しいものです。

中山道赤坂宿の街並みを



新本社屋受付カウンター

矢橋グループ（矢橋林業、矢橋工業、三星磁業）新本社屋が完成致しました。私たちは、築後約百年という歴史ある旧赤坂銀行の本社を長年本社として利用してきましたが、この度、建物の老朽化に伴い建て替えることになりました。中山道赤坂宿の景観を配慮した建物というデザインコンセプトで、矢橋林業顧問早川正夫先生（早川正夫建築設計事務所）の設計・監修のもと、旧本社屋の面影を残した落ち着きと風格のある建物となりました。建物内部、受付カウンターの背面は、自社独自の様々な加工や塗装技術を集約した木製の壁となっております。また、カウンターは旧本社屋で利用していた今では採取することのできないという貴重な大理石を再利用し



新本社屋外観

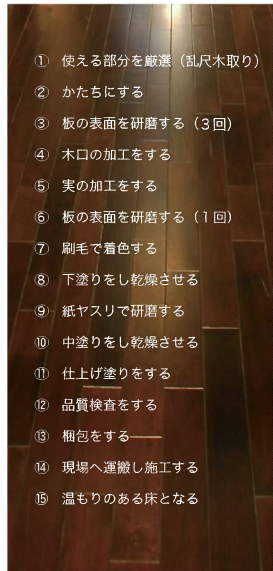
各部屋も様々な材種を用い自社で塗装し、それぞれ特徴のある仕上げとしました。皆様も是非一度、ご覧になって下さい。お待ちしております。今後は、今まで以上に、グループ内の交流を深め、業務の効率を上げて行きたいと思っております。

矢橋オリジナル 無垢フローリング 足下から感じる温もり。

触ってみて下さい。感じて下さい。手づくりの温もりを。矢橋オリジナル無垢フローリングは、一枚一枚丁寧に塗装をしています。一般的には二回の塗装の後、ワックスで仕上げるのですが、多いのですが、自社では、三回目にツヤ消しの塗装で仕上げています。ピカピカのフローリングもきれいでありますが、光が反射しますし、傷、汚れ、ムラ等が目立ってしまいます。また、何度

もワックスをかけ直さなくてはいいけません。しかし、自社製品なら硬く絞ったタオルで拭きするだけでよいのです。無垢なので、動いたり傷がついたりしますが、永く使って頂けます。先日、築後数十年のお宅のフローリングを一部、塗り直してきましたが、とても良い風合いになり、家族の思い出とともに時代が感じているような感じがしました。

フローリングができるまでの工程



フローリングに適した木



木材事業本部 垂井工場
吉田 日出男 塗装歴 13 年

平成18年度秋の黄綬褒章を授与された津久井貞雄先生より塗装技術を学びました。板は同じ様に見えても一枚一枚表情が違います。目で見て手で確かめながら塗装をしています。機械では出せない手づくりの温もりを届けできればと思います。

季刊誌「緑」発刊に際して

日頃は矢橋林業をお引き立て賜り誠にありがとうございます。ご縁を頂き大切な家を矢橋林業にご用命を頂き矢橋の家にお住まいを頂いております。お施主様とは住宅の存在する間の長い付き合いをさせて頂くわけでありますが点検やアフターケア等を除いて時間と共に実際に日常でお付き合いをさせて頂く機会が少なくなってしまいます。そこで是非家を建てて頂いて以降も益々暮らしを豊かにして頂くお手伝いは出来ないものかと考え我々が得た情報をお施主様方にもお知らせして家と暮らしを充実する手段として頂きたく本紙「緑」を発刊いたしました。お住まい頂いてからご家族の色々な思い出と共に時間を経つことで家は皆様方の本当のスイートホームになっていくのだと思います。そんな皆様方のお役に立てる暮らしの情報、住宅関連の新製品の情報を集めお届けしたいと思っております。今後ともご愛顧をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

矢橋林業株式会社

代表取締役社長 矢橋龍宜

うみゆり連載集

中山道赤坂つれづれの記

赤坂お茶屋屋敷（一）

清水 春一

二〇〇六年七月 矢橋林業の五十周年、三星砒業の四十周年を記念し矢橋グループの社内報「うみゆり」に長年にわたり連載して頂きました清水春一先生の地元赤坂の歴史についての文をまとめた本「うみゆり連載集 つれづれの記上・下巻」を刊行させて頂きました。ここでは、その本の内容の一部をご紹介します。

慶長五年（一六〇〇）の秋九月十五日世にいう天下分け目の関ヶ原合戦に大勝した徳川家康は、全国の諸大名を完全に支配する実権を握ることになりました。それからおよそ二年半ほど経た慶長八年二月に征夷大將軍に叙任されて、名実ともに天下を手中に収め、江戸に幕府（政府）を創立しました。以来二百六十余年の長期にわたる徳川政権の基礎を確立し、明治維新にいたるまで三ツ葉葵の定紋に表徴される絶対の権力を維持することになります。

そうした日本史の中でも特筆に価する大事件とでもいましょうか、関ヶ原合戦の果たした社会的な役割を考えその時代の背景を掘り下げて観察してみるのは、時代の今昔を超えて、私たちの生きる現在、また未来のためにも大きな意義のあることです。

ここでは、その関ヶ原合戦の結果に間接的につながった事柄を取り上げます。近世の夜明けを迎えた徳川政権の初期における、太平の時代を築く基礎的な政策の一つとして実施された家康の賢明な大計画に改めて驚きにも似た偉大さを感じずにはおれません。

お茶屋屋敷の建設もその一つで、日本の交通史上に一ページを飾る事柄で

す。しかも現在残存するお茶屋遺跡として、赤坂のお茶屋屋敷跡は唯一のものであるといわれ、貴重な歴史的所産で、郷土の先輩たちが遺してくれた大垣市の誇りであるわけです。赤坂町が江戸時代、中山道の宿場町として繁栄した証として、そこ設置されていたお茶屋屋敷を偲ぶこともまた意義深いものです。

徳川家康が江戸幕府を開くと同時に平和政策として、まず実施したのが、全国内の道路網を整備することであったわけですが、その主要道路の一つ中山道にはほぼ四里（十六キロ）ごとに、將軍の休泊する専用の宿舎を設置しました。家康が初めて江戸から京都へ上洛し、御所へ挨拶に参上する予定の慶長十年（一六〇五）の秋の旅行に間に合わせるため、その前年の春、沿道関係の諸大名に命じて造営させたのがお茶屋屋敷であったのです。

赤坂のお茶屋屋敷は、美濃国中の諸大名のお手伝い普請ということで「辰巳両年に由来、徳永法印殿（高須城主式部卿法印寿昌）、御領主、御普請奉行知行千石安部孫兵衛、同木工」と『赤坂宿古記録』にも記載されているように、時の天下様徳川將軍家康公の絶対に、時の天下様徳川將軍家康公の絶対に



赤坂お茶屋屋敷

命令ですから、立派に行なわれたことは想像に難くありません。

辰は慶長九年ですから翌巳年は十年に当たり、この屋敷が完成した慶長十年の秋九月十五日に、家康は初めて赤坂で宿泊したわけです。このことは、また別の記録（『大日本史料』『徳川実紀』『大垣藩地方雜記』など）によると、『赤坂宿古記録』の九月十五日は、九月十九日の誤記ではないか、と思われま

この赤坂お茶屋屋敷の実態については、のちに述べることにして、ともあれこの屋敷が開設された当時は、総面積三町四反六畝十九歩（約三万四千六百平方メートル）という広大な土地を擁し、本丸、二の丸、隅櫓などを備え土塁、空濠を巡らした厳然たる城郭の構えをもった屋敷でした。

それが明治維新となり、廃藩置県とともに新しい政府が立ち立てられたとき、この屋敷も払下げとなりました町の名主であった矢橋宗太郎氏が買受けて、その跡を保存、保護していますまた孫の龍吉氏が邸内の一部に牡丹を栽培し、生涯かけて今日の立派な牡丹園に育てられました。惜しいことに、史跡お茶屋屋敷のおよそ半分に及ぶ面積が、戦後の新制赤坂中学校の校地に化して、現在の遺跡は完全に昔のままではありません。それでも前記のようにほかに例のない貴重な史跡として現存することは、所有者の功績として高く評価されています。

美しく咲く寒牡丹



矢橋林業株式会社

